

平成 2 5 年度
第 2 回 柏市健康福祉審議会
地域健康福祉専門分科会

会 議 資 料

本 編

平成 2 5 年 8 月 1 日

柏市保健福祉部

柏市健康福祉審議会 地域健康福祉専門分科会 委員名簿

氏名	よみ	所属など
阿部和子	アベ カズコ	大妻女子大学教授
今村貴彦	イマムラ タカヒコ	柏歯科医師会会長
川眞田喜代子	カワマタ キヨコ	淑徳大学教授
小竹恵子	コタケ ケイコ	社会福祉法人柏市社会福祉協議会 副会長
小林正之	コバヤシ マサユキ	柏市立介護老人保健施設はみんぐ施 設長
清水栄司	シミズ エイジ	千葉大学大学院教授
長瀬慈村	ナガセ ジソン	柏市医師会副会長
中谷茂章	ナカタニ シゲアキ	柏市民生委員児童委員協議会会長
中村佳弘	ナカムラ ヨシヒロ	柏市薬剤師会会長
藤田武志	フジタ タケン	松葉町地域ふるさと協議会相談役 (前柏市ふるさと協議会連合会会長)
古川隆史	フルカワ タカフミ	柏市議会議員
水野治太郎	ミズノ ジタロウ	麗澤大学名誉教授

目 次

1	計画策定に係る関連会議等の開催状況について・・・・・・・・・・	1
2	第1回市民ワークショップの結果について・・・・・・・・・・	2
3	第3期計画の構成案について・・・・・・・・・・	8
4	本日、ご協議いただく事項・・・・・・・・・・	9

1 計画策定に係る関連会議等の開催状況について

■ 策定に係る関連会議等の開催予定

	審議会	庁内WG	市民WS	パブリック コメント
6月		7日 WG①		
7月	4日 分科会①	10日 WG② 19日 WG③	6日 WS①	
8月	1日 分科会②		31日 WS②	
9月		3日 WG④	14日 WS③	
10月	3日 分科会③		5日 WS④ 19日 WS⑤	
11月	28日 分科会④	1日 WG⑤		
12月				
平成26年 1月		21日 WG⑥		
2月	13日 分科会⑤ 27日 全体会			
3月				

2 第1回市民ワークショップの結果について

■市民ワークショップについて

1 目的

- (1) 計画策定に当たり、市民の生の声を聞く。
- (2) 計画策定及び推進に当たっての市民・地域・行政の役割分担を検討する。

2 参加者募集方法

- (1) 昨年度、ワークショップに参加した人に案内を送付
- (2) 広報かしわ、かしわシティネット(柏市HP)等による募集

3 申込者数及び参加者数

- (1) 申込者数 26名
- (2) 第1回参加者数 18名

【申込者数(カッコ内の数字は、第1回目の参加者)】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
男性	10(8)	1(1)	1(1)		1(1)	2(1)	4(3)	1(1)
女性	16(10)			1(0)	4(3)	10(6)	1(1)	

4 全5回の予定

開催日	プログラム
第1回(7月6日)	①ワークショップの目的について 3ページ ②地域健康福祉の現状について 4～6ページ ③第3期柏市地域健康福祉計画について 7ページ
第2回(8月31日)	・柱1 みんなで支えあえる地域づくり
第3回(9月14日)	・柱2 情報発信と相談体制づくり
第4回(10月5日)	・柱3 健やかに暮らせる地域づくり ・重点事業について
第5回(10月19日)	・柱4 安全安心に暮らせる地域づくり ・計画推進体制について

■第1回市民ワークショップのプログラムについて

①ワークショップの目的について 説明

地域福祉及び地域健康福祉計画の概要について、参加者の皆さんに説明を行いました。

その上で、このワークショップの目的が、地域健康福祉計画を策定するために参加者の皆さんの意見やアイデアを聞かせてもらうものであることの説明を行いました。

②地域健康福祉の現状について ワークショップ形式

参加者が顔見知りとなるために、自己紹介を行い、その後、グループに分かれて、柏市の地域健康福祉に関するクイズを行いました。

問1 平成22年国勢調査では、高齢化率（総人口に65歳以上の占める割合）は、全国で23.0%、千葉県で21.5%、柏市では19.9%でした。

さて、平成31年の柏市高齢化率は、何パーセントでしょうか？

- ①約20%=0人 ②約25%=14人 ③約30%=4人

なぜそう思いましたか？

- ②・今、自分の家の周りはほとんどが70歳以上なので
- ・高齢化は進むだろうが、全国平均より穏やかでは
 - ・少子化で高齢者の占める割合が上がる
 - ・4人に1人が高齢者。高齢化が進んでいるので
 - ・今が21%なので
 - ・他の都市並みに高齢化する
 - ・交通の便がよいから若い人も入ってくるから
- ③・高齢化は予想以上に進んでいると思われる
- ・現在、急激に高齢化が進んでいるから
 - ・全国的に30~40%となっているので同じかな

問2 昨年度アンケート調査では地域福祉に関するボランティアやNPO活動に、約1割の方が取り組んでいるということでした。

さて、今後そうした活動をしたい人はどれくらいいるでしょうか？

- ①約2割程度=5人 ②約4割程度=12人 ③約6割程度=1人

なぜそう思いましたか？

- ①・NPOというと大変だという気持ちでなかなかやれない
- ・ボランティアやNPOに関心のある人が3割というのは納得
 - ・人間は人の役に立つことに喜びを感じるから
 - ・あまり現役の人と違って周りの人と交流が少ない
 - ・希望する人は思うほど多くないと思う
- ②・みなさん自分の趣味等で忙しくしているから
- ・思っている方の割合だから
 - ・関心はあるが生活費が必要で仕事に追われている
 - ・行政対応の遅れ
 - ・元気な高齢者が増えるから。行政の努力も後押し。
 - ・支え合いの大切さが切実
 - ・関心はあると思う
 - ・意外とボランティアで外に出る人は少なくないかも
- ③・健康増進計画を見たとき高かった記憶が…

問3 現在柏市社会福祉協議会では、支え合い活動（サロン）の立ち上げを支援しています。4年前の平成21年度には180活動（サロン）ありました。

さて、平成24年度には、サロンはいくつになったでしょうか？

①201活動=7人 ②221活動=11人 ③251活動=0人

なぜそう思いましたか？

- ①・そんなに増えない
- ・目標300に対して
 - ・思った以上に家から出て地域のサロン活動に参加されていない
 - ・サロンの立ち上げにはエネルギーが必要だから
 - ・あまり増えない。会が縮小していく
 - ・サロン活動する場所（地域）は限られている
 - ・4年間ではそのくらいの増加だと考えた
- ②・住民の必要性から
- ・支援が効果を上げた
 - ・これくらいあればよいかと思います
 - ・伸び悩み
 - ・急に多くはならないかも

問4 柏市にはK-Netという取り組みがあります。

さて、このK-Netとは何でしょうか？

①災害時の支援制度=15人 ②ボランティアネットワーク=0人 ③柏市情報サイト=3人

どこで聞いたことがありますか？

- ①・市の広報紙他
- ・地域で、行政で、広報で
 - ・自治会の会合
 - ・市役所、町会
 - ・前回のワークショップで聞いた
 - ・どこかのセミナーに参加したとき
- ③・あまりない。不明
- ・聞いたことがない

問5 アンケート調査では、地域福祉に対する意識が『高まっている』と感じている人は約2割となっています。

今後、地域福祉の意識を高め、地域で助け合い・支え合うためには何が必要だと思いますか？

個人の回答

- ・行政の力がなくても、住民が支え合えば楽しく暮らしていける。人と人との交流、あいさつ、笑い、おしゃべりこそ大切
- ・自助・公助・共助
- ・楽しいことに参入できる活動が増えること
- ・地域福祉の必要性をしつこく訴えていくことだと思います
- ・現状を知ること、コミュニケーション
- ・行政と市民との密な連絡。細やかなコミュニケーション作り。会議やミーティング等。
- ・柏市の実情を広く市民にアピールして小さなお手伝いから始められるきっかけ作りをしていく
- ・向こう三軒両隣、近所付き合い、声かけ、あいさつ
- ・講演会、講習会などを現実にあった事象を対象に開催したらよい
- ・人への関心を持つこと。小さな小さな働きを柏市が応援すること
- ・情報（現状、課題、事例、その地域の既存の活動、行政の支援）、伝達支援
- ・コミュニケーション
- ・相手を思いやる心と、健康に動ける体調を持つ
- ・となり近所の人ともっと交流を深めていく
- ・情報の発信。行政と市民の橋渡しをする組織（個人）が必要。町会・自治会等の活用方法を検討する
- ・様々な世代の人たちの協力が必要だと思うので、若い人も地域に参加できるような社会をつくる（情報）（始めるきっかけ）
- ・情報の共有

グループごとの回答

- ・相手を思いやる心
- ・自分の健康
- ・行政の施策が末端まで届く手段を考える
- ・情報の発信
- ・行政と市民の橋渡し

○向こう三軒両隣

↓伝達・手段

○情報

- ・現状、課題
- ・優良事例
- ・活動の受け皿
- ・行政の支援

→

○若者世代
関心の喚起

○ワンストップサービス

- ・支える仕組み
- ・たらいまわし
- ・縦割り行政解消

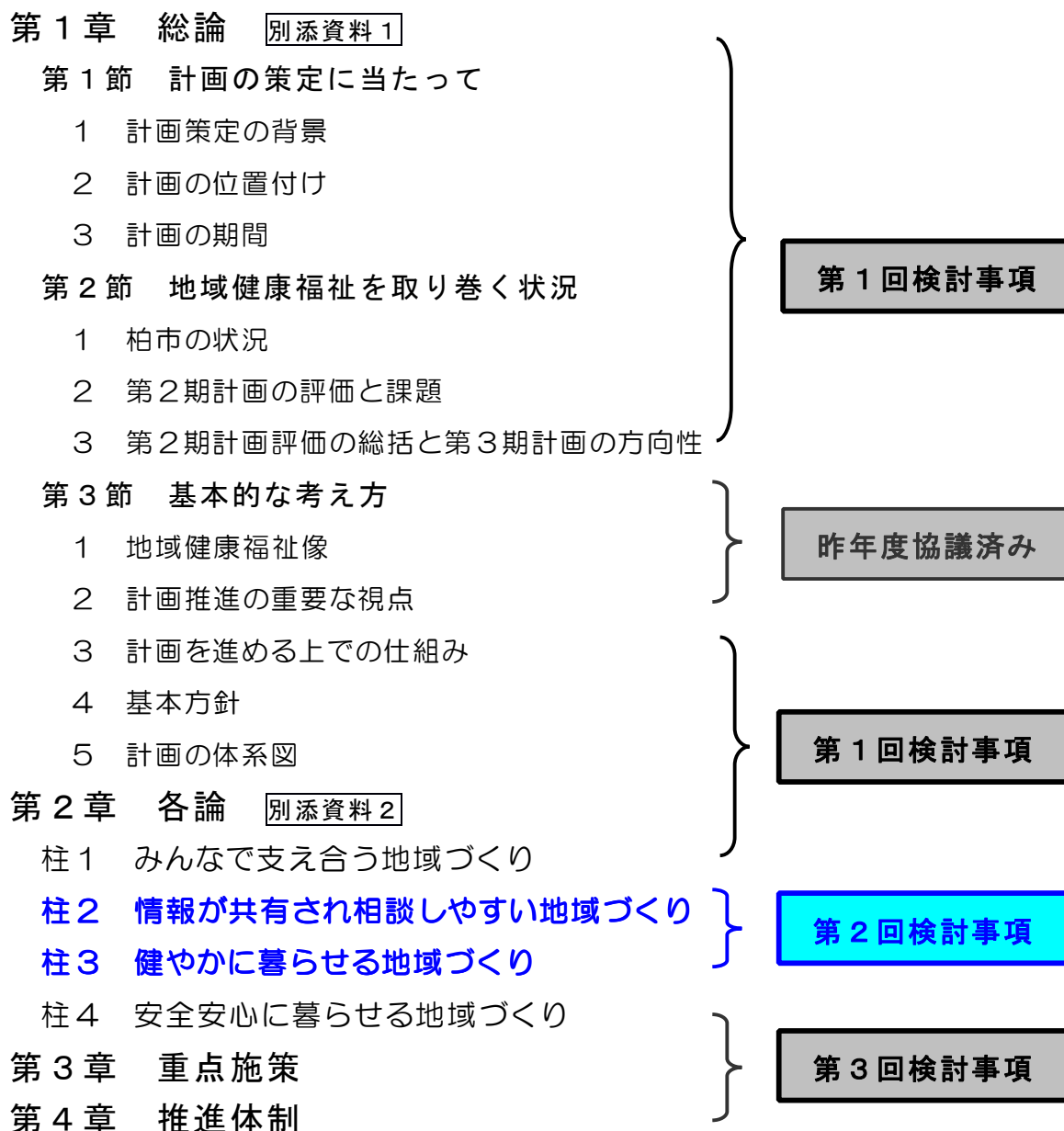
- ・コミュニケーション
- ・講演会、講習会等を現実にあった事象を対象に開催したらよい
- ・情報の共有
- ・人への関心を持つこと。小さな小さな働きを柏市が応援すること
- ・ジャンボタクシーの更なる充実
- ・自助・公助・共助
- ・楽しんでできる活動
- ・地域福祉の必要性をしつこく言う
- ・現状を知ること、コミュニケーション
- ・行政と市民の密なコミュニケーション

③第3期柏市地域健康福祉計画について 説明

次回以降，ワークショップを円滑に進めていくため，参加者の皆さんに現計画の評価・次期計画の方向性，地域健康福祉像等について説明を行うとともに，柱ごとに記載する各柱を推進していくために市民一人ひとりの担う役割，地域の担う役割を検討していただくことがこのワークショップの重要な役割であることを説明しました。

3 第3期計画の構成案について

■第3期計画の構成案



※ 参考

【各論の柱について】

第2期計画から第3期計画への移行に当たって、柱の数を5本から4本へとしました。なお、削った柱については、より関係の深い他の柱にそれぞれ位置付けていきます。

4 本日、ご協議いただく事項

1 「総論 案」の修正について

別添資料1

①前回の審議会でもいただいた主なご意見等とその対応について

- ・地域健康福祉像に「生」についてだけでなく、「死」についても書き込んでいくべき。
→対応：地域健康福祉像の説明部分(総論12ページ)に加筆しました。
- ・障害者や高齢者だけでなく、子どもや子育て世代についても触れるべき。
→対応：柏市の状況(総論4,5ページ)に子育て世代に関する情報、人口ピラミッド等を追加しました
- ・「支援が必要な人」とは誰が決めたのか。
→対応：主体を変更し、表現を「支援を必要とする人」に改めました。
なお、以下は今後も、引き続き検討させていただきます。
- ・自分の死を見つめること
- ・看取り・死に至る経過
- ・コミュニケーションをとろうとしない人・支援を拒否する人への対処
- ・各柱の吹き出しの「市ではこんなことに取り組みます!」という表現

以上の対応等につきまして、ご意見、ご提案等をお願いいたします。

2 「柱2 情報が共有され相談しやすい地域づくり」について

別添資料2(P7~P12)

- ・庁内ワーキングの協議をもとに、素案を作成しました。
ご協議、ご提案等いただけますようお願いいたします。

3 「柱3 健やかに暮らせる地域づくり」について

別添資料2(P13~P19)

- ・庁内ワーキングの協議をもとに、素案を作成しました。
ご協議、ご提案等いただけますようお願いいたします。